Nexus ダッシュボードのアップグレード

- 前提条件とガイドライン （1 ページ）
- Nexus ダッシュボードのアップグレード （5 ページ）

前提条件とガイドライン

既存のNexus Dashboard クラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- アップグレードに影響する可能性のある動作、ガイドライン、および問題の変更については、ターゲット リリースのリリース ノートを必ずお読みください。

  アップグレード プロセスは、すべての Nexus ダッシュボード フォーム ファクタで同じです。ただし、既存のクラスタが物理サーバー、VMware ESX、Linux KVM、Azure、または AWS を使用して展開されている場合は、ターゲット リリースの ISO イメージ（`nd-dk9.<version> .iso`）アップグレードします。既存のクラスターが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、RHEL 固有のイメージ（`nd-rhel- .tar` ）。

- 既存のクラスタで実行するサービスのリリース ノートおよびアップグレード ガイドを確認し、アップグレードに影響する可能性がある動作、注意事項、問題でサービス固有の変更について対象のリリースで実行を計画するようにしてください。

  サービス固有のドキュメントは、次のリンクで見つけることができます。

  - Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、リリース ノート
  - Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレード ガイド
  - Nexus Dashboard Insights リリース ノート
  - Nexus Dashboard Insights アップグレード ガイド
  - Nexus Dashboard Orchestrator リリース ノート
  - Nexus Dashboard Orchestrator アップグレード ガイド

- 物理的な Nexus Dashboard クラスタをアップグレードしている場合は、ノードにターゲットの Nexus Dashboard リリースでサポートされている最小の CIMC バージョンがあることを確認してください。

サポートされている CIMC バージョンは、ターゲット リリースの *Nexus Dashboard リリース ノート* にリストされています。

CIMC アップグレードについては、*Nexus Dashboard ユーザー ガイド* の「トラブルシューティング」セクションで詳しく説明されています。

- アップグレードを続行する前に、データを保護し、潜在的なリスクを最小限に抑えるために、アップグレードの前にNexusダッシュボードとサービスの構成バックアップを実行する必要があります。
- Nexus Dashboard リリース 2.1(2) またはそれ以降を実行して、リリース 2.3(x) に直接アップグレードする必要があります。

  最小リリースより前のバージョンを実行している場合は、2.3(x) リリースにアップグレードする前に、 *Cisco Nexus Dashboard Deployment Guide, Release 2.2(x)* の説明に従ってリリース 2.2(2) にアップグレードすることをお勧めします。

（注） 追加のアップグレードパスと最小バージョン要件は、クラスタにインストールした特定のサービスによって異なる場合があります。詳細については、上記にリンクされているサービス固有のリリース ノートとアップグレード ガイドを確認してください。

- リリース 2.3(x) にアップグレードする前に、クラスタで実行されているすべてのサービスを無効にする必要があります。
  - Nexus Dashboard を同じリリース内の 1 つのパッチから別のパッチにアップグレードする場合 (たとえば、2.3.2b から 2.3.2d に)、Nexus Dashboard のアップグレードが完了したら、サービスを再度有効にします。
  - Nexus Dashboard をあるリリースから別のリリース (たとえば、2.3.1 から 2.3.2) にアップグレードする場合、既存のサービスはターゲットの Nexus Dashboard リリースと互換性がない可能性があります。プラットフォームのアップグレードが完了しました。

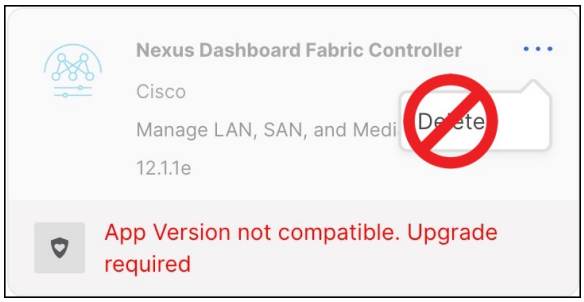
    Nexus ダッシュボードとサービスの相互運用性サポートの完全なリストについては、「Nexus ダッシュボードとサービスの互換性マトリクス」またはこのセクションで前に示したサービス特有のアップグレード ガイドを参照してください。

（注）

- Nexus Dashboard ファブリック コントローラの場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

  Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。

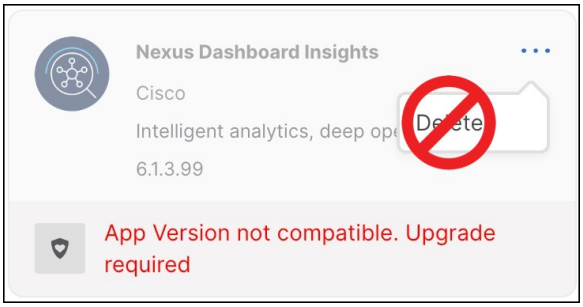
  ファブリック コントローラのアップグレードイメージをアップロードする前に、このバージョンを**削除または再度有効にしない**でください。新しいバージョンをアップロードしたら、古いリリースを削除する前に、それを有効にしてサービスのアップグレードを完了する必要があります。新しいリリースがアクティブ化される前に古いサービス バージョンを削除すると、アップグレードが失敗する可能性があります。



- Nexus Dashboard Insights の場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

  Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。

  Insights アップグレード イメージをアップロードする前に、このバージョンを**削除または再度有効にしない**でください。新しいバージョンをアップロードしたら、古いリリースを削除する前に、それを有効にしてサービスのアップグレードを完了する必要があります。新しいリリースがアクティブ化される前に古いサービス バージョンを削除すると、アップグレードが失敗する可能性があります。



- Nexus Dashboard Orchestrator の場合、新しいバージョンをアップロードしてアクティブ化する前に、既存のバージョンを再度有効にする必要があります。

- 有効な DNS および NTP サーバーが構成され、すべてのクラスター ノードから到達可能である必要があります。
- 現在の Nexus ダッシュボードクラスタが正常であることを確認します。

  Nexus ダッシュボードの**管理コンソール（Admin Console）**の **[概要（Overview）]** ページでシステムのステータスを確認するか、`rescue-user` としてノードの1つにログインし、`acs health` コマンドを実行して `All components are healthy` が返ってくることを確認します。
- アップグレードが進行中にワーカーまたはスタンバイ ノードを追加するなど、設定変更がクラスタに対して行われていないことを確認します。
- Nexus Dashboard ではプラットフォームのダウングレードはサポートされていません。

  以前のリリースにダウングレードするには、新しいクラスタを展開してサービスを再インストールする必要があります。

Nexus ダッシュボードのアップグレード

ここでは、既存の Nexus ダッシュボード クラスタをアップグレードする方法について説明します。

始める前に

- で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。前提条件とガイドライン （1 ページ）

手順

ステップ 1 Nexusダッシュボードイメージをダウンロードします。

a) [ソフトウェア ダウンロード（Software Download）] ページを参照します。

https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258

b) ダウンロードするNexusダッシュボードのバージョンを選択します。

c) ターゲットとするリリース用の Cisco Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします。

（注）

- Nexus ダッシュボードが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、`.tar` イメージ (`nd-rhel-<version> .tar`) を使用してアップグレードを実行します。

  RHEL の展開の詳細については、既存の Red Hat Enterprise Linux インストールでの展開を参照してください。

- 他のすべてのフォーム ファクターについては、`.iso` イメージ（`nd-dk9.<version>.iso`）を使用してアップグレードを実行します。

  たとえば、最初の展開で仮想フォーム ファクターを使用していた場合（VMware ESX での展開のための `.ova` イメージなど）、またはクラウドプロバイダーのマーケットプレースを使用していた場合であっても、アップグレードでは `.iso` イメージを使用する必要があります。

d) （オプション）環境内のWebサーバでイメージをホストします。

イメージをNexus Dashboard クラスタにアップロードする場合、イメージに直接URLを指定するオプションがあります。

ステップ 2 現在の Nexus Dashboard GUI に管理者ユーザーとしてログインして、**管理コンソール**に移動します。

ステップ 3 クラスタにインストールされている既存のサービスを無効にします。

（注）
クラスタのアップグレードをする前にすべてのサービスを無効化する必要があります。

a) メイン ナビゲーション メニューから **[サービス（Services）]** を選択します。

b) サービスのタイルで、**[アクション] (...)** メニューをクリックし、**[無効化]** を選択します。

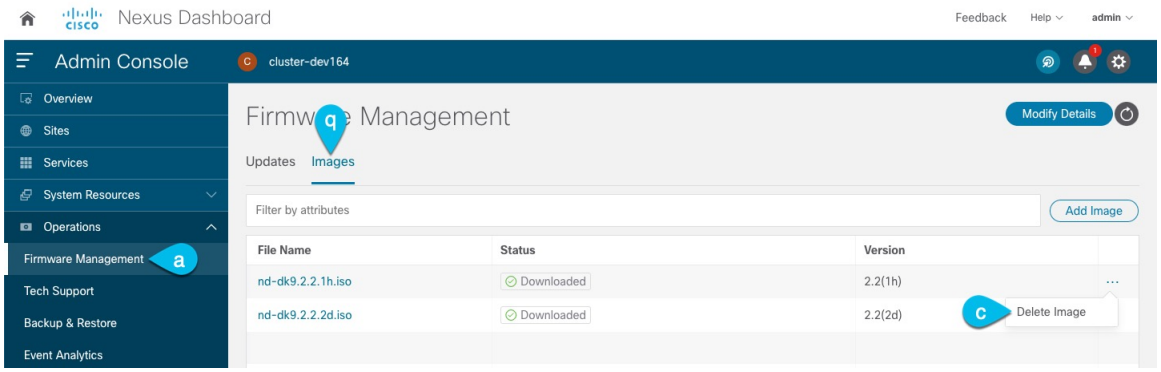
c) クラスタに展開されている他のすべてのサービスについて、この手順を繰り返します。

ステップ 4 クラスタから既存のアップグレード イメージを削除します。

クラスタを初めてアップグレードする場合は、この手順をスキップできます。

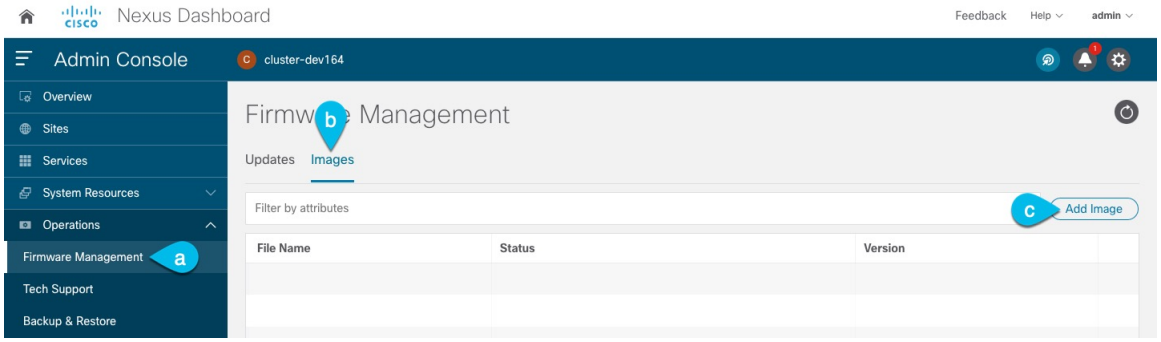
以前にクラスタを現在のバージョンにアップグレードしたことがある場合は、以前のアップグレードで使用されたアップグレード イメージを削除する必要があります

Nexus ダッシュボードのアップグレード



a) **[Operations（オペレーション）]** > **[ファームウェア管理（Firmware Management）]** に移動します。
b) **[イメージ]** タブを選択します。
c) 既存のアップグレードイメージの横にあるアクションメニュー（**...**）から、**[イメージの削除（Delete Image）]** を選択します。
d) すべての既存のアップグレード イメージについて、この手順を繰り返します。

ステップ 5 新しいイメージをクラスタにアップロードします。



a) **[Operations（オペレーション）]** > **[ファームウェア管理（Firmware Management）]** に移動します。
b) **[イメージ]** タブを選択します。
c) [Add Image] をクリックします。

ステップ 6 新しいイメージを選択します。

a) **[ファームウェア イメージの追加（Add Firmware Image）]**ウィンドウで、**[ローカル（Local）]** を選択します。

   または、ウェブ サーバでイメージをホストした場合は、代わりに **[リモート（Remote）]** を選択します。

b) **[ファイルの選択（Select file）]** をクリックし、最初の手順でダウンロードした `.iso` または `.tar` イメージを選択します。

   RHEL での展開の場合、`.tar` ファイルを使用してアップグレードします。他のすべての展開ファクターの場合、`.iso` ファイルを使用します。

   リモートイメージのアップロードを選択した場合は、リモート サーバ上のイメージのファイル パスを指定します。

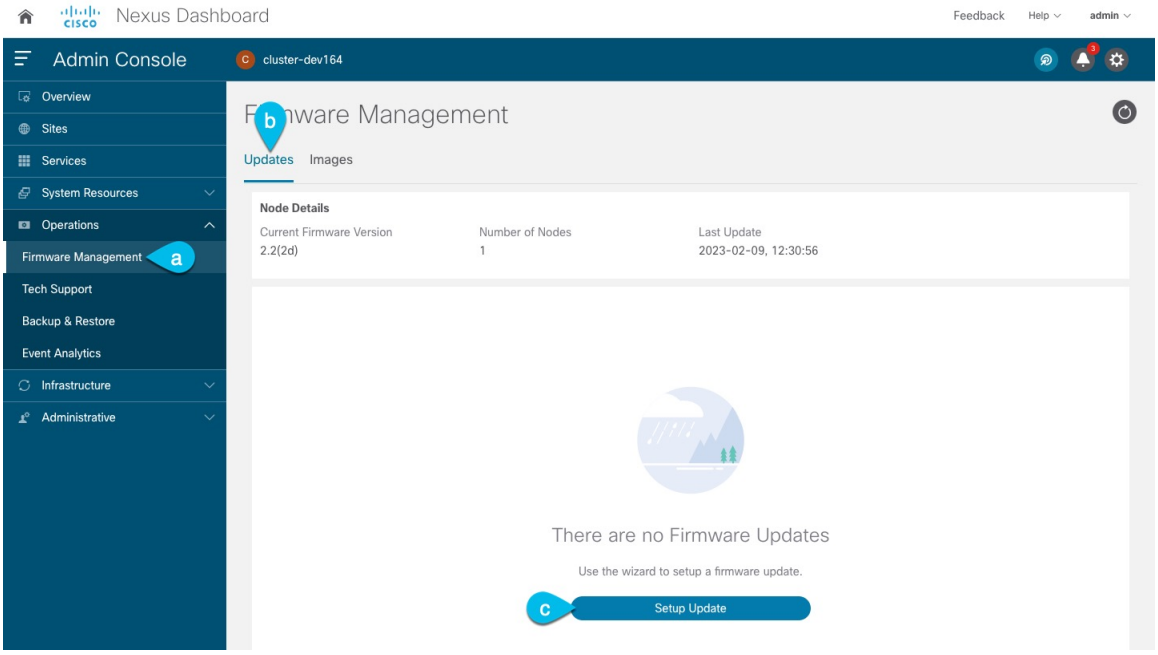
c) **[アップロード（Upload）]** をクリックして、イメージを追加します。

イメージが Nexus ダッシュボードクラスタにアップロードされ、解凍されて処理され、アップグレードに使用できるようになります。プロセス全体に数分かかる場合があり、**[イメージ（Images）]** タブでプロセスのステータスを確認できます。

ステップ 7 イメージ ステータスが「ダウンロード済み」に変わるのを待ちます。

イメージでイメージのダウンロードの進行状況を確認できます。

ステップ 8 更新を設定します。



a) **[Operations（オペレーション）]** > **[ファームウェア管理（Firmware Management）]** に移動します。

b) **[更新]** タブを選択します。

c) **[更新の設定（Set Up Update）]** をクリックします。

（注）
以前にクラスタをアップグレードしたことがある場合、ページには代わりに以前のアップグレードの詳細が表示されます。その場合は、ページの右上にある **[詳細の変更（Modify Details）]** ボタンをクリックして、新しいアップグレード情報を提供します。

[ファームウェアの更新（Update Firmware）] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 9 アップグレードを開始します。

a) **[ファームウェアの更新（Firmware Update）]** > **[バージョン選択（Version selection）** 画面で、アップロードしたファームウェア バージョンを選択し、**[次へ（Next）]** をクリックします。

b) **[ファームウェアの更新（Firmware Update）]** > **[確認（Confirmation）]** 画面で、詳細を確認し、**[検証（Validate）]** をクリックします。

セットアップは、アップグレードを確実に成功させるために、いくつかの準備段階と検証段階を経ます。終了するまでに数分かかる場合があります。

c) 検証が完了したら、**[インストール（Install）]** をクリックします。

インストールの進行状況ウィンドウが表示されます。更新中は、この画面から移動できます。後で更新ステータスを確認するには、**[ファームウェア管理（Firmware Management）]** 画面に移動し、**[最終更新ステータス（Last Update Status）]** タイルで **[詳細の表示（View Details）]** をクリックします。

これにより、必要な Kubernetes イメージとサービスが設定されますが、クラスタは新しいバージョンに切り替わりません。次の手順で新しいイメージをアクティブ化するまで、クラスタは既存のバージョンを実行し続けます。このステップは、最大で 20 分程度かかる場合があります。

ステップ 10 新しい画像をアクティブにします。

アップグレード画面から移動したことがない場合は、**[アクティブ化（Activate）]** をクリックして新しいイメージをアクティブ化します。

そうでない場合は、次のようになります。

a) **[オペレーション（Operations）]**>**[ファームウェア管理（Firmware Management）** 画面に戻ります。
b) **[最終更新ステータス（Last Update Status）]** タイルで、**[続行（Continue）]** をクリックします。

一部の以前の Nexus ダッシュボード バージョンでは、このリンクは代わりに **[詳細の表示（View Details）]** と呼ばれる場合があります。

c) **[ファームウェア アップデート（Firmware Update）]** > の **[インストール（Install）]** 画面で、**[アクティブ化（Activate）]** をクリックします。

すべてのクラスタサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了すると、自動的に再ロードされます。

ステップ 11 クラスタに展開されている個々のサービスをアップグレードします。

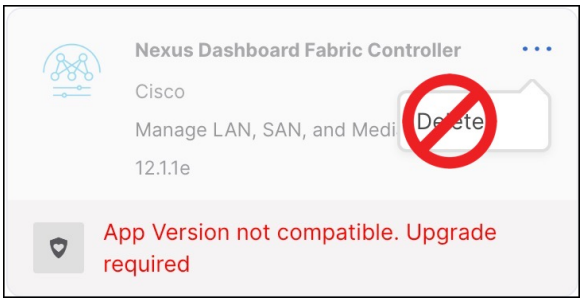
アップグレードするサービスに固有のアップグレード ガイドを必ず読んでください。

- Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレード ガイド
- Nexus Dashboard Insights アップグレード ガイド
- Nexus Dashboard Orchestrator アップグレード ガイド

（注）
サービスをアップグレードする場合：

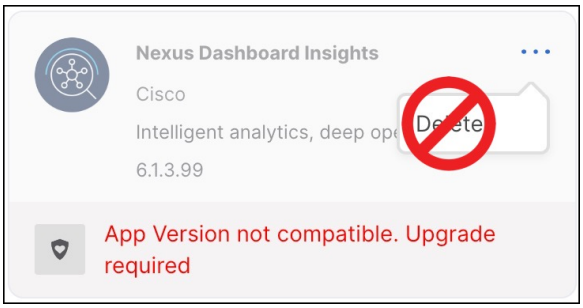
- Nexus Dashboard ファブリック コントローラの場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

  Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。ファブリック コントローラのアップグレード イメージをアップロードする前に、このバージョンを**削除または再度有効にしない**でください。



- Nexus Dashboard Insights の場合、クラスタのアップグレード後も、サービスをアップグレードするまで、サービスを無効にしておく必要があります。

  Nexus Dashboard クラスタがアップグレードされた後、サービスの既存のバージョンが、互換性のないアプリ バージョンと共にリストされる場合があります。アップグレードが必要です。警告。Insights アップグレードイメージをアップロードする前に、このバージョンを**削除または再度有効にしない**でください。



- Nexus Dashboard Orchestrator の場合、新しいバージョンをアップロードしてアクティブ化する前に、サービスの既存のバージョンを再度有効にする必要があります。

ステップ 12 (オプション) 新しい UCS-C225-M6 ハードウェアに移行します。

（注）
Nexus ダッシュボード ノードを新しい UCS-C225-M6 サーバーに置き換える予定がない場合は、この手順をスキップできます。

新しいハードウェアへの移行を計画している場合は、前の手順で説明したように、最初に既存のクラスタをリリース 2.3(1) 以降にアップグレードする必要があります。

UCS-C220-M5 ハードウェアを使用して展開された既存の Nexus ダッシュボード クラスタを移行するには、新しい UCS-C225-M6 ノードを `stadby` ノードとして既存のクラスタに追加し、古いノードの 1 つをフェイルオーバーするだけです。

次に、古いクラスターの残りのノードについて、一度に 1 ノードずつプロセスを繰り返します。`stadby` ノードの追加と使用については、*Nexus Dashboard ユーザー ガイド*の「インフラストラクチャ管理」の章で詳しく説明されています。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。